

講評

住宅部門

賞	作品名	講評
最優秀賞	石金の家	富山県に移住して購入された中古住宅を、県産材で見事にリノベーションされた住宅です。築45年の既存建物を減築することにより、風通しや日当たりを改善させるとともに、減築して生まれた軒下部分を使い収納やDIYスペースを生み出しました。断熱・耐震改修された内部は県産材の無垢のフローリングが敷かれ、移住して飼った猫の爪痕も床に馴染んでいました。大規模なリノベーションながらもコストが抑えられており、人口減少社会で建築住宅着工戸数の減少は避けられない中、リノベーションをして住まいを新しく作る際の一つのモデルケースとして、高く評価しました。
優秀賞	高窓のある平屋	梨農家である施主が終の棲家として建てた、農作業とデザインとを両立した造りの住宅です。作業時の軽トラックでの敷地の出入りのために、梁を持ち出して作られた柱のないカーポートスペースは、外材と比べて強度が不足しがちな県産材の持ち出し梁を1本ずつ強度測定することで実現し、玄関廻りが県産材に包まれた空間となっています。飼い猫のひっかき対策として壁面に県産材を使用しており、高窓からの光が柔らかく差し込む内観となっています。
優秀賞	柴野内島の家	外壁の全面を無塗装の県産材下見板張りとして、木材の経年変化を楽しむことのできる住宅です。全面を木としながらも玄関廻りに白漆喰を組み合わせることでデザインのバランスもとれた造りとしており、内部も床、天井に県産材を多用しながらもスッキリとした内観となっています。ルームエアコンの吹き出し口を床下に向けて設置した床下エアコン暖房を採用することで、県産材のフローリングがほのかに暖かい、過ごしやすい空間となっています。
特別賞	過去から未来へ繋げる家	施主の父や祖父が植えたスギやカラマツをふんだんに使って建てられた住宅です。世代を超えて丁寧に育てられてきた木材を、地元の製材所で挽き、昔ながらの熟練の職人により手刻みで加工し自宅に使う。「伐って、使って、植えて、育てる」森林資源の循環利用の好事例です。

非住宅部門

賞	作品名	講評
優秀賞	タカノグループ本社研修センター	国道41号線に面したガラスのファサードの奥に木製格子が映し出される、鉄骨造の事務所ゾーンと木造で支えるアトリウムで構成されたハイブリッド構造の建造物です。創業100年の節目に自社の木造技術を活用して作りたいとの想いで作られており、県産材が壁面、天井にふんだんに使われたエントランスから入る3層吹き抜けのホールは木材を感じられる空間となっています。非住宅、中大規模の建築物の木造化の流れの中で、これからの事務所の1つのあり方の一例として評価しました。
優秀賞	vegeboat（ベジボート）	両面にサッカーコート等の計画がある中、双方のサッカーコートを繋ぐ設計となっており、休憩・物販施設で販売されている商品は地産地消が心掛けられた非常に親しみやすい施設です。ダイナミックな屋根の形や、木を直接感じられる使い方に設計者の工夫が見られます。身体に近い部分の仕上げに県産材が多用されており、外壁や内壁の他、地元の木工作家による机や椅子も全て県産材で製作されています。
特別賞	金森産業株式会社	小規模ながらも非常に繊細な設計がされており、県産材を丸く円柱状に削って作りこまれた壁面は、製作に当たった家具職人の方の技術が光っています。木造ではなく、県産材使用量も小規模ですが、大規模な新築、増改築までは出来ない中でも、内装の木質化を進めていく上でヒントとなる取組として評価しました。
特別賞	だい	富山市の街中に訪れた方の目に入る県産材を使った木格子は開閉可能となっており、昼の顔と夜の顔を使い分け街並みとの関係性を調整できるようにされています。外部空間に広がる大きな建具としての県産材の新たな使い方の一例であり、木造ではなく、県産材使用量も小規模ですが、大規模な新築、増改築までは出来ない場合の外装木質化として評価しました。